




園だより 冬休み


その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。
ヨハネによる福音書1章9節



クリスマス礼拝後の日曜日、園庭樹木の剪定が行われました。朝、すっきりとした木々を眺めながら、次の春に向けて既につぼみを膨らませている木々の様子に命のエネルギーを感じました。そしてその下で元気に遊ぶ子どもたち。木々と呼応し合い生命力に溢れた園庭の様子でした。先週はお家の方々と一緒にそれぞれの学年でクリスマス礼拝が守られましたこと感謝いたします。

そして二学期最後の週。各お部屋からクリスマス讃美歌の歌声が聞こえてきました。年長組のお部屋では「おめでとーうマリア〜」とやりたい役でページェントを楽しむ子どもたちがいました。年少組・年中組の子どもたちも自分のやりたい役になり御言葉を伝え讃美歌を歌っていました。年長組の子どもたちが心を込めて伝えた神様からのメッセージは、ちゃんと小さいクラスの子どもの心に届いていました。そして「次は私の番」と、想いを来年度以降に馳せている様子でした。このようにして本当のクリスマスの「嬉しい想い」は次の学年へと引き継がれていく、嬉しい恵みです。

クリスマスを待ち望むアドヴェント期間が大切に過ごされた12月の日々。毎日守られる礼拝。毎日誰かに届くアドヴェントカレンダーの「光」※。クリスマスの訪れを伝えるオーナメント作り。お家の方への心を込めたプレゼント作り。毎年変わらないこの時期ならではの幼稚園での日々。今年もそれらを皆で喜び合いながら温かな心を育み過ごして参りました。幼稚園としては至極当たり前に過ごされた日々ですが、そこにどれほどの子どもたちの豊かな心の動きがあったことでしょうか。些細な動きである心持ちの変化をどれほど大切に捉え過ごして来たことでしょうか。当たり前の日々ではあるけれど、かけがえのない毎日として捉え、その大切な日々が、子どもたちの、保育者たちの、そして想いを共にしてくださる保護者の方々の心を動かしたアドヴェントの日々となりました。



クリスマスで皆様の心に灯った温かなひかりを讃美歌「♪みんなで照らしましょ〜」のように照らし続けながら二学期を終了できますこと心から感謝申し上げます。来年も宜しく願いいたします。

園長 駿河 幸子

※「光」・・・ここで言う「光」とは、保育者が子どもたちひとり一人のために想いを込めて羊毛で作成したものです。みんな同じものではなく、最初は淡い黄色から、クリスマスに近づくにつれてイエス様のお誕生を知らせる暁星色へとグラデーションになっています。